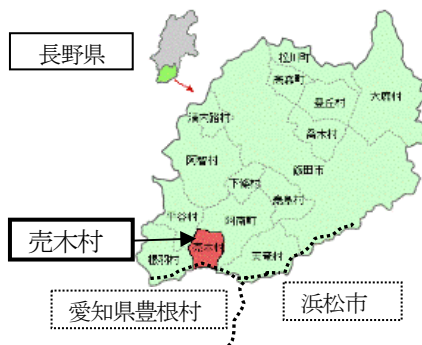


モデル事業名	人と地域資源を活かす“住んで元気、訪れて元気”の山里づくり事業
活動団体名	特定非営利活動法人三遠南信アミ
ホームページ	http://www.rue-ami.com/
所属／担当者名	理事 三宅淳子
連絡先	携帯番号：090（7605）2914 Eメール：wellplan@uv.tnc.ne.jp
活動地域	長野県下伊那郡売木村

● 活動地域の概要

長野県の最南端に位置し、標高1,000m級の山々に囲まれた山村で、天竜川支流・売木川沿いの小盆地に集落が分布。中心集落の標高は約800m。282世帯、人口625人（平成22年7月現在）、総面積に占める森林率88%。人口減少・少子高齢化が進んでおり（高齢化率45,2%）、遊休農地の増加、集落活動の低迷、観光交流人口の減少が続いている。公共交通は、下伊那郡南部5町村運営の南部公共バスが運行（売木～飯田1往復、売木～飯田線温田駅5往復）。



遊休農地に植えられた景観作物



温泉施設「こまどりの湯」

入館者数はピーク時の約6割減

● 活動地域の課題

① 持続可能な地域コミュニティの創生

住民が主体となり、行政や事業者、地域外の活動主体と連携して相互連携しながら、地域資源の魅力を掘起して、地域への愛着・誇りを醸成しつつ、協働による“住みよい、訪れよい”山里づくりに取り組む。

② 協働による地域資源の活用

多様な地域内外の活動主体が協働して、売木村固有の地域資源を「守り、育み、活かす、伝える」取組みと、付加価値のある商品づくり（農産物加工、山村体験交流企画商品等）、都市農村交流活動をとおして地域の活性化、経済振興を図る。

● 活動の内容

(全体)

- 協働の体制づくり・・・「売木村まるごと元気推進会議」の立上げ
(メンバー；住民、事業者、観光協会、商工会、教育委員会、行政、地域外NPO、大学)
- 地域資源の発掘と活用・・・新たな交流イベントの創出（春色感謝祭）、食や体験プログラムの開発
- 自転車活用による都市農村交流の創出・・・山里サイクリングイベント実施、サイクリングマップ作成等
- 情報発信の強化・・・売木村ふるさとカレンダーや売木村紹介パンフレット作成（地元写真倶楽部写真提供）、自転車雑誌や南信州・伊那谷エリアの桜の写真雑誌掲載による情報発信等

(直近1年間の進捗など)

- 「春色感謝祭」（都市農村交流イベント）の開催
- 物産販売事業への参加（浜松市内の三遠南信物産販売イベント等）
- 村役場において電動アシスト自転車の導入を図り、イベント時に貸し出して「自転車の村づくり」を推進。

● 活動の成果

・全体

(活動の成果、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

○住民参加の地域づくり

地域資源の発掘・ふるりの魅力再発見による地域への愛着・誇りの醸成、
村づくりへの参加意識の向上、「対話と参加」の機会を生むことができた。

○地域資源を活かした商品づくり

「うるぎ米ライスコロッケ」の開発

○コミュニティ活動の活発化

「うるぎハーブの会」の結成

○都市農村交流活動の活発化

「春色感謝祭」の継続開催

○地域づくり応援メンバーの拡大

地域外の応援メンバー

- ・自転車愛好家・愛好グループ（サイクリングイベント開催）
- ・地域間交流・連携活動を行う NPO（都市部との交流イベント開催や情報提供、商品開発の応援など）
- ・大学（学生サークル活動によるイベント運営の応援）
- ・商業者（物産販売イベント開催、販路拡大、商品開発など）

○情報発信

自転車雑誌や南信州・伊那谷エリアの桜の写真雑誌掲載（売木村の桜の特集が組まれた）による情報発信等



春色感謝祭（2010年4月）

・直近1年間の成果など

(活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

○物産館（うるぎふるさと館）内の食堂の再開

ここ数年間、閉鎖されたままの食堂を住民有志により

「つみくさ食堂」として再開した。地元の食材をふんだんに使った料理や
山里ならではの「摘み草料理」などを提供。

○広域の地域連携活動への積極的な参加

現在、愛知県、静岡県、長野県の県境地域連携推進を目指して、

3地域の経済界、行政、住民に参加による「三遠南信サミット」が年一回

行われている。2010年11月の第18回三遠南信サミットの中の住民セッションにおいて、
売木村住民から、次年度開催に向けて売木村で事前の住民セッションを行うことを提案し、
開催の準備に取り組んでいる。



つみくさ食堂（2010年7月）

● 今後の課題及び展望

・課題（活動を通して発見された課題等を記入）

○地域づくりを担う人材育成

売木村「地域学」講座の開催、地域づくり人材バンク形成（地域内外対象）など

○地域内外の農商工連携による物語性・付加価値のある商品づくり

○情報発信の強化（IT活用、売木村情報紙「かわら版」作成など）

○三遠南信地域連携活動の活発化

・展望（今後の取組みや検討について記入）

売木村を含む三遠南信地域では、今後ますます県境を越えた地域間の交流が活発化してくると思われる。

本事業により形成された協働の地域づくり活動の輪を広げ、交流事業の充実（桜街道ネットワーク形成など）、
都市部（下流域）における村資源のPR、付加価値のある商品づくりや販路拡大などを行い、地域の活性化を目指す。

● その他（自由記述）

「村の元気」が、新たな定住者を生むさらなる展開を仕掛けていきたい。